

REFEREE NEWS

公益社団法人千葉県サッカー協会審判委員会
審判委員会ホームページ : <https://chiba-fa.gr.jp/13judge/>



OCT 2025
年4回WEB発行(1、4、7、10月)

2025年度千葉県女子サッカー選手権大会 決勝戦 (皇后杯JFA第47回全日本女子サッカー選手権大会千葉県予選)

2025年7月21日(月・祝)16:30キックオフ 高瀬下水処理場上部運動広場
帝京平成大学 3(0-0,3-2)2 流通経済大学付属柏高校
R:澤井 朋子氏、AR1:平山 美幸氏、AR2:渡辺 香雛氏、4th:彦坂 由樹子氏(文中敬称略)

今年は毎年開催されている東総運動場からタカスポに場所を移して開催された、千葉県女子サッカー選手権大会決勝戦を終えた審判団にインタビューを行いました。



(左から 渡辺 香雛さん、澤井 朋子さん、彦坂 由樹子さん、平山 美幸さん)

目次			
千葉県女子サッカー選手権決勝戦	1~4	昇級審査合格者のお知らせ	13~14
ジュニアワールドチャレンジ	5~8	審判資格更新(サッカー/フットサル)	14~15
今日も地域で頑張っています!!	8~9	競技規則のWEB化について	15
U-12フットサル選手権決勝戦	10~11	編纂後記	16
女子部観戦研修	12		

Q : 本日は中暑いお疲れ様でした。まずは、決勝を終えた感想をお願いします。

澤井 : 無事に試合を終えることが出来て良かったです。

平山 : とにかく負傷者もなく無事に終了してよかったと思います。また、暑すぎることもなく、熱中症などのトラブルもなかったことに安心しています。

渡辺 : 夕方の時間からのキックオフでもまだ気温の高い中でしたが、両チームファウルも少なく、大きなけがもなく無事に試合を終えることができ安心しています。その中でこのような素晴らしい試合を担当させて頂けたことを光栄に思います。

彦坂 : 無事に終えることができホッとしています。



Q : 澤井さんは、初めての決勝戦の主審でしたがいかがでしたでしょうか？

澤井 : 主審をさせていただき、とても光栄です。緊張しましたが、熱く白熱した試合を選手とともに関わることができ嬉しかったです。



Q : 平山さんは、去年に引き続きアシスタントでしたが今回の会場が例年の東総と違い高瀬下水処理場上部運動広場でしたがいかがでしたでしょうか？

平山 : 私自身は自宅から近いので、試合時間が遅くなっても不便がなくて良かったです。選手の皆さんにとっては人工芝であることや、観客席がないことなどが影響していないか気になるところではあります。

Q : 渡辺さんは、初めての決勝戦のアシスタントでしたがいかがでしたでしょうか？

渡辺 : 今回初めて皇后杯という大きな試合のアシスタントを担当させてもらいましたが、やはり決勝戦という事もあり会場の緊張感も高く特別感のある試合でした。両チームの技量が高く後半の試合終盤にかけても運動量が多かったところが非常に印象的でした。改めてサッカーの楽しさを感じることができました。

Q : 彦坂さんは、今回第四の審判員でしたが見える景色はいかがでしたでしょうか？

彦坂 : 今回は第四の審判とのことですがいつもよりは緊張は少なかったです。ただ、県内でもあまり第四の審判の経験がないのでドキドキでした(笑)。グラウンド全体が冷静に見ることができ審判チームとして何かあればフォロー出来る様に試合にのぞみました。

Q : 本日の試合の判定で印象的なシーンや難しかった場面はどこでしたか？

澤井 : 後半すぐに先制点が決まり、そこからのボール回しに対するフォアチェックのスピードのギアが一段階上がった際に予想よりスピード感があつたのが印象的です。

平山 : 特定のシーンといいますか、様々な判定において主審とコミュニケーションが取れて審判チームとして納得できる判定を出せたことは印象的でした。オフサイドについても副審同士で注意点など共有し対策できていたため多少は余裕ができていたと思います。

渡辺 : 全体的にオフサイドの判定が難しかったです。ディフェンスラインとフォワードの選手のレベルが高かったため、非常に際どいシーンが多く難しかったのが強く印象に残っています。

Q : 本日の試合で審判団としてグッドポイントは？

澤井：打ち合わせから試合終了まで、お互い情報を共有し協力しあえたことだと思います。

平山：前の質問でも答えましたが、意思疎通と情報共有ができていたため審判団として納得できる判定ができたことだと思います。

渡辺：審判員の中でハーフタイムの時に相互に情報を共有したり、試合中もアイコンタクトを取ったり、コミュニケーションを取るなど全体を通してチームワークが良かったと思います。

彦坂：みんなで協力して試合を終えられた事。第四の審判としてはレフェリーと交代やアディショナルタイムの確認などコミュニケーションがスムーズに取れたことです。



Q : 県内の女性審判員にメッセージを！（女性審判仲間を増やすために）

澤井：審判もたくさん仲間がいます。お母さん審判員ならではの悩みだったり、身体や心の準備だったり考えることはたくさんありますが、それでも審判は楽しいです。子どもに帯同することもあると思いますが、子どもたちにとっても、お母さんにとっても素敵な時間になることは間違いありません。少しでも興味を持ってくださる方がいれば、是非一緒に活動していきましょう。

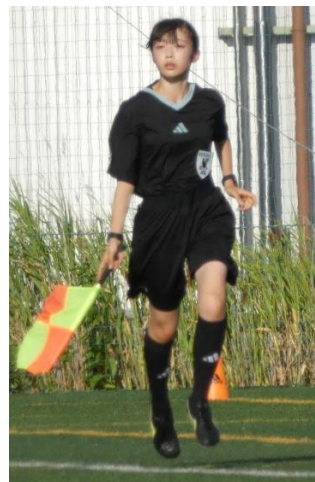


平山：個人的な意見ですが、審判を始めることや新しいカテゴリーに挑戦することにあまり気負わなくてもいいのではないかなと思っています。「私なんかじゃ・・・」と置いていっちゃう方もいるかもしれませんが、私自身まったくの未経験から初めて、いまだに「私でいいのか？」と思っていますがサポートしてくださる方もいらっしゃいますし、新しいことにチャレンジしてみても得られるものもあるもので・・・。

何事もやってみることをお勧めいたします。

渡辺：まだまだ女性審判員は少なくハードルが高い部分もありますが、実際に審判としてサッカーに関わってみると、また新たなサッカーの魅力を発見することができ、魅力的な部分もたくさんあるので興味のある方はぜひ審判にチャレンジしてみたいです。

彦坂：近年女子のサッカーが少しずつですが盛り上がってきていると思いますし、女性審判の方々もたくさんいます。皆さんそれぞれライフスタイルがあると思いますが、少しでも「何でだろう？どうして？」など興味をもったら足を踏み入れて欲しいです。そんなにハードルは高くないですよ！（笑）



Q : 最後に今後の抱負をお願いします。

澤井 : 自分が今出来ることに限界を設けず、色々な方の助言や意見を心にとめながら、努力を重ねて楽しんでいきたいと思っています。

平山 : まずは怪我無く過ごすこと。審判活動では、毎回自分の中で持っている課題を1つずつ地道にクリアしていくことを続けていきたいと思っています。1番の抱負は、いつでも楽しんでいきたいと思っています。

渡辺 : 今回の皇后杯という素晴らしい大会の決勝戦の副審を担当させていただけたのは、日ごろからご指導してくださる千葉県サッカー協会の方々や、先輩の審判員の方々など、多くの方々のお力添えがあってこそです。自分の至らないところもあり、ご迷惑を多々おかけしてしまっていますが、皆様のおかげで少しずつですが成長できています。そういった方々に少しでも恩返しができるよう、そして自分の大好きなサッカーの発展に少しでも貢献できるよう、努力を積み増さね、日々精進してまいります。

彦坂 : もういい歳なので、ケガなく残りの審判を楽しみたいです(笑)。審判を通じて貴重な体験、色々な方々の出会いに感謝いたします。



【動画】※2025年12月31日まで掲載(リンクをクリック)

入場シーン

https://1drv.ms/v/c/be794890900f7f48/EXq_53iElqtII4OyorZee_8BQSKuKI9iRXM88BrPi7Jcyw?e=0Uts37

コイントス

https://1drv.ms/v/c/be794890900f7f48/EcQDMeWU1ctHuLNqtnOrFVYBdv3M88Pj0BEiQBpgBbRqNA?e=K9I_Irs

チームワークの良さがコメントにも出ていますね！みなさま、ありがとうございました。



～今年も千葉で開催 4 年目となりました～



U-12 ジュニアサッカー ワールドチャレンジ2025

2025 年 8 月 19 日(火)～8 月 22 日(金)

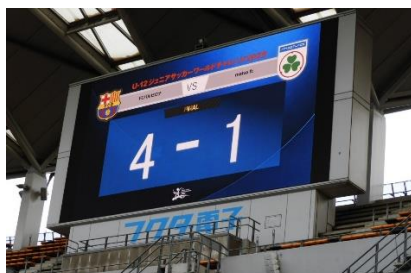
2022 年から千葉で開催され 4 年目となった「U-12 ジュニアサッカーワールドチャレンジ」ですが、本年は総勢 80 チームが参加し 4 日間で 89 試合、延べ 270 名の審判員が必要な大会となりました。今年も日中時間帯の酷暑を避けるため朝と夜の開催となり、派遣審判員に加えて 2 種の学生、そして JAPAN サッカーカレッジの生徒さんにも協力していただきました。また、今年は育成部が中心となってユース研修に加え、カテゴリー C/D の審判員対象に宿泊研修も行い、充実した大会になりました。

多くの皆さまのご協力で無事に 8 月 22 日の決勝戦まで終えることができました。当日の様子を掲載します。



決勝戦の審判団(左から末次氏、村上氏、永島氏、川島氏)





決勝戦入場シーン(以下のリンクをクリックしてください)

[ワーチャレ入場シーン.mp4](#)

[ワーチャレ挨拶.mp4](#)

U-12 ジュニアサッカーワールドチャレンジ 2025 について

詳細は以下のリンクでご覧ください。

<https://u12-juniorsoccer-wc.com/2025/>

準決勝、決勝戦のライブ配信動画

<https://u12-juniorsoccer-wc.com/2025/live>

ワールドチャレンジ2025研修報告

2025年8月19日(火)～20日(水)@フクダ電子スクエア・フィールド

今年も例年どおり、ワールドチャレンジを利用した研修会を開催しました。今回は「ユース日帰り研修」と「大人向け宿泊研修」に分けて実施。今回は特別ゲストとして、埼玉県所属のPR(プロフェッショナルレフェリー)中村太氏(順天堂大学出身)にもインストラクターとしてご参加いただきました。

真夏の平日にもかかわらずご参加くださった皆さま、本当にありがとうございました！



カテCD ユース対象 ワールドチャレンジ宿泊研修開催

★ユース日帰り研修★

☆研修対象者☆

月例のユース研修会参加者や高体連サッカー部からの推薦者。中村太PRは育成部ユース担当者とともに、熱のこもった指導を展開しました。

☆研修の流れ☆

8月19日朝8時集合。15分ハーフの試合を1～2試合担当し、その都度フィードバックを実施。昼食をはさんで、中村氏から講話をいただき、参加者は新たな気づきを得て解散となりました。

★大人向け宿泊研修会★

☆研修対象者☆

カテゴリーC・Dの審判員を対象として開催しました。普段は県内で主審を担当する機会が多くない方々も含まれました。インストラクターには中村太PR・浅田武士PR(順大コンビ)をお迎えし、贅沢な指導体制となりました。

☆研修の流れ☆

8月19日初日は午後集合後に15分ハーフの試合を2試合担当。夕食では懇親会も行い、交流の場として大いに盛り上がりました。その後は千葉市内のホテルに宿泊。翌日は座学からスタートし、前日の試合映像を題材に振り返りを行いました。昼食を挟み、午後には再び2試合を担当。「試合→フィードバック→試合」と循環する形で、その日の課題にすぐ取り組める実践的な研修となりました。

★参加者の声★

☆渡辺 香織さん(ユース研修参加)☆

今回このような素晴らしい大会を用いた研修会をセッティングしてくださりありがとうございました。今回の研修では同年代の審判員と対面形式で様々な交流が持てとても貴重な機会になりました。実技研修では映像を用いて課題点やその試合での良かったところを明確に認識することができ今後の活動に直接的に生かしていくことができるような形でのフィードバックをしてくださりありがたかったです。改めてサッカーの楽しさを再確認する機会になりました。本当にありがとうございました。

☆川島 悠人さん(ユース研修参加)☆

まずはこういう機会をいただきありがとうございます。ユースがこんな集まる機会は滅多になくとても楽しい研修でした。中村さんのお話やアセッサーの話も聞いたりして為になることだらけの一日でした。競技規則テスト高い点が取れなくて実力不足を感じたのでこういう機会がまたあったら取れるように努力したいです。

☆木村 康太さん(大人向け研修参加)☆

今回、初めてU12ワールドチャレンジの研修に参加しました。参加動機は自分のレフェリングに対して、自信が持てるようになりたいと思っていました。毎試合、アセッサーの方がついてくださり、的確な指導をいただきました。PRの中村太さんから、選手やアシスタントレフェリーとの関わりの部分を褒めていただけたことがとても印象に残っています。今後もこうした機会に積極的に参加したいです。自分が自信を持って納得できるレフェリングを行い、選手と共にサッカーというスポーツを楽しんでいきたいです。

☆宮崎 靖之さん(大人向け研修参加)☆

とにかく暑かったですが、充実した研修会になりました。実際のレフェリングを観て頂き、指摘していただいた点は初めて気づいた点が多く、とても勉強になりました。

夜の懇親会もいろいろな方と話が出来て楽しかったです。

☆猪熊 香織さん(大人向け研修参加)☆

ワチャレという大舞台で審判ができ、その後、Jリーグで活躍されている上級審判の方からアドバイスをいただきました。翌日は、前日に行った自分の審判動画を見ながらグループディスカッションをし、午後からは改善点を意識して審判。その後、上級審判の方とフィードバックをするという、夢のような研修内容でした。また、宿泊することで、他市町村の審判の方々とも顔見知りになることができ、横の繋がりをつくることができました。50代ではありますが、体力・技術力を向上させ、来年もぜひ参加したいと強く感じた研修でした。

今年の研修は「試合での実践」と「指導者からのフィードバック」を密に繰り返せる貴重な機会となりました。今後もこうした取り組みを継続し、カテゴリーごとの成長をサポートしていきます。



(特別版) 今日も地域で頑張っています！！

～いつも各地の大会会場で頑張って審判している方々を紹介します～

2025年8月19日(火)U-12ワールドチャレンジ2025

～フクダ電子スクエア、フクダ電子フィールド～



今年も「地域で頑張っています」の**特別版**として、8月に開催された「U-12ワールドチャレンジ」に審判として参加した審判員にインタビューをしました。様々な試合で様々な審判員と一緒に試合を担当し、貴重な経験になった事と思います。今後も多くの審判員の皆さんの有意義な機会になると良いですね！

- | | | |
|-------------------|--------------------------|----------------|
| ①：氏名(敬称略) | ②：審判歴 | ③：審判になったきっかけは？ |
| ④：審判活動で印象に残っていること | ⑤：これだから審判は辞められない審判の魅力とは？ | |

- ①：大崎 亮司(おおさき りょうじ)
- ②：約10年です。
- ③：息子が通う4種のサッカーチームの帯同審判がきっかけです。
- ④：県内の女子社会人リーグで主審を担当した試合です。主審を受ける人が見つからなかったようで、知人伝いに依頼を受けました。試合終了後、両チームの選手・スタッフから「主審を受けてくださったおかげで今日の試合を開催することができました。」と感謝のお言葉をいただいたことがとても印象に残っています。この瞬間審判は「Referされる人」なんだと改めて実感し、サッカー審判の本来の役割を果たしたのだと自分でも非常に充実感を抱きました。
- ⑤：高校生の息子もユース審判として活動しており、お互いの試合で起こった事象や競技規則について食卓を囲んで盛り上がるが増えました。私は膝痛で割当ては開店休業状態なのですが、このレフェリートークが楽しくて審判活動から足を洗えません(笑)。





- ① : 大橋 佳久(おおはし よしひさ)
 ② : 約 2022 年に 4 級審判員を取得し、地域での活動を積み重ねてきました。
 2024 年に 3 級へ昇級し、千葉県サッカー協会からの派遣割当を受けてからは 1 年弱になります。
 ③ : 指導しているクラブで必要とされたことが最初のきっかけでした。
 さらに B 級指導者講習に参加した際、「サッカーをもっと様々な角度から見たい」という想いが強くなり、審判活動に挑戦することを決意しました。プレーや指導だけでは決して得られない視点でサッカーに関わることで、より深く理解できると感じたのです。
 また、指導者として選手を導くうえで、審判の目線や考えを理解することは非常に大切だと気づきました。だからこそ、私は指導者であり、同時に審判員でもある二刀流として挑戦しています。
 ④ : 初めて派遣試合を任されたとき、ピッチに立った瞬間に全身を包んだ緊張感は今も鮮明に覚えています。笛を吹くごとに試合が動き、公平公正にゲームをコントロールし続ける責任の重さを肌で感じました。最後まで走り抜いた後、選手やスタッフの方から「ありがとうございました」と声をかけられたとき、胸の奥が熱く震えました。さらに、この活動を通じて多くの審判員の仲間と出会い、人と人の繋がりが広がっていったことは、私にとってかけがえのない財産です。

- ⑤ : 試合時間のすべて、ピッチに立ち続けてゲームを公平公正に導く。その緊張感と責任感の中でタフに走り抜き、無事に試合を終えたときに得られる達成感は、何ものにも代えられません。さらに、地域で情熱を持って活動する仲間との出会いが、人と人を繋ぎ、審判員としても一人の人間としても成長させてくれます。だからこそ、私は審判を辞められません。
 これからも指導者と審判の二刀流でサッカーに挑み続けていきたいと思っています。

- ① : 樋口 空(ひぐち そら)
 ② : 8 年です。
 ③ : 父親に今後もサッカー続けるならとっておいた方がいいよ！と言われて取りました。
 ④ : 小学 6 年生の時に初めて主審をした時に時計を押し忘れて時間がわからなくなったことです。(笑)
 ⑤ : レベルの高いプレーを誰よりも近くで見られることです。



「地域で頑張っている」レフェリーを取材に行きます！

千葉県内の様々な地域で色々な大会が行われて、そこで頑張って活動しているレフェリーを取材に行きます。例えば、4種の各ブロックが主催する大会で主管部から指定された方々、各市の審判部会から派遣された方々、地域やチームの招待試合において数名で審判を担当する方々など、また「こんな名物審判がいる！」など、紹介したいレフェリーなど情報をいただければ、総務部が取材に行きます。
 情報を以下でメールしてください。(大会名、日にち、時間、レフェリーの人数等)お待ちしております。

メールアドレス: cfarc.somu@gmail.com

JFA バーモントカップ 第35回全日本U-12フットサル選手権大会 決勝戦の報告



JFA バーモントカップ

第35回全日本U-12フットサル選手権大会

千葉県フットサル2級審判員 金指友翔



2025年8月17日(日)、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館にて開催された「JFA バーモントカップ 第35回全日本U-12フットサル選手権大会」の決勝戦において、主審を務めさせていただきました。本大会は全国47都道府県予選を勝ち抜いた全48チームが集い、U-12年代フットサルの頂点を競う非常に大きな舞台です。各地域を代表する選手やチーム、そして会場を埋め尽くす観客が生み出す熱気に満ち溢れた大会であり、その決勝戦の主審を担当させていただけたことは、私にとってこの上ない喜びであり、大きな経験となりました。

今回の大会は「2025年度フットサル2級審判員(U-22)研修会」を兼ねており、私は関東地域代表として参加いたしました。研修生は全国6地域から1名ずつ選出され、北海道、東北、関東、東海、北信越、関西の計6名で研修に臨みました。研修テーマは「シグナルと笛」で、シグナルについては「その目的や役割を常に意識し、試合に関わる全ての人に対して強く、美しく、エレガントで、メッセージ性のある表現を行うこと」、笛については「試合をコントロールするための道具であり、選手や観客との対話の『言語』である。正しい笛は信頼される審判につながる」とのご指導をいただきました。特に「キックオフの笛を最も大きく、自信を持って吹く」ことが今回の研修における重要な目標として掲げられ、実技や試合を通して強く意識して取り組みました。

大会初日(8月15日)の1次ラウンドでは、自身のストロングポイントである動き、また研修テーマに沿った笛の強弱やシグナルの毅然さを評価いただきました。一方で、対立が起こりそうになった際のマネジメントや、競技者と会話をするときの表情・口調についてご指摘をいただきました。特にU-12年代の選手は小学生であるため、大人に対するのと同じ毅然とした態度ではなく、柔らかく穏やかな表情や口調を心掛けることが必要であるとご教示いただき、大きな学びとなりました。

2日目(8月16日)の1次ラウンドでは、前日に指導された点を意識した結果、表情や口調が大きく改善され、グリーンカードの提示場面においても柔和で安心感のある印象を与えることができたことと評価をいただきました。一方で、シグナルの角度や方向性については、毅然さは十分であるものの、細かい部分で意識の持続が必要であると指摘されました。細部にこだわり続ける姿勢の重要性を改めて実感しました。



ハックアウト方式に入ったRound of 16では、第2審判を担当しました。負けければ終わりの一発勝負で試合が激しくなることが予想される中、事前の打ち合わせで「ファウルを未然に防ぐ予防的アプローチを徹底する」ことを主審と共有し、自身の強みである動きを活かして試合に臨みました。結果としては非常に良い評価をいただきましたが、ファーストファウル以前のホールディングについては、第2審判の視点からより積極的に介入すべきであったとのご指摘をいただき、役割分担と判断の責任を再認識しました。

準々決勝では主審を務めました。この試合では手の不正使

用に対する介入の遅れや、動きに余裕がなさすぎる点を指摘されました。それまで順調に研修を進めていただけに、自身の未熟さを痛感するとともに、「この評価が最終日の割り当てにどう影響するのか」という不安を抱えることになりました。

そして迎えた最終日(8月17日)、会場で発表された割り当てにて、決勝戦の主審を任せていただくことになりました。第2審判は北信越地域代表の宮崎碧氏、第3審判とタイムキーパーは東京都のフットサル1級審判員である板橋海氏、川村勝治氏が担当されました。対戦カードは千葉県代表マルバ千葉fcと東京都代表FCトリアネーロ町田による関東対決。会場には1,009名もの観客が集まり、これまでに味わったことのない緊張感の中でキックオフを迎えました。



試合は両チームの高い技術と強い気持ちがぶつかり合う熱戦となりましたが、選手の健闘と周囲のサポートのおかげで、ノーカードで試合を収めることができました。観客の歓声に包まれながら笛を吹き終えた瞬間、この研修を通じて積み重ねてきた努力と学びが一つの形になったと感じました。試合後には担当インストラクターから「素晴らしい試合であった。研修テーマについて十分に理解し、実践できていた」とのお言葉をいただき、大きな自信につながりました。



フットサル2級審判員に昇級してわずか2か月というタイミングで、このような全国規模の研修に参加させていただき、さらに決勝戦という貴重な経験をいただけたことを心より嬉しく思います。最後になりますが、私を本研修に送り出してくださった千葉県サッカー協会審判委員会フットサル・ビーチサッカー部 部長の木村拓氏をはじめ、日頃からご指導いただいている皆様、そしてJFAフットサル1級インストラクターの櫻田雅裕氏に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

本研修で学んだこと、得た気づきと課題を忘れず、これからも一試合一試合に真摯に向き合い、審判員としても一人の人間としても成長して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

大会概要はこちら

<https://www.jfa.jp/match/vermontcup2025/>

決勝戦ニュース

<https://www.jfa.jp/match/vermontcup2025/news/00035398/>

～女子部観戦研修～

8月23日(土)2025-26 WEリーグ 第3節を使用しての観戦研修を行いました。試合のカードはジェフユナイテッド市原・千葉レディースvsマイナビ仙台。

ナイターということもあり、参加者は5名と少なかったのですが、女子部員でもある講師の1級審判員千葉 恵美さんを囲んで、目の前の試合の判定やポジショニングについて、リアルタイムで質問したり解説を聴くことができていました。

参加した皆さんからは、以下のような感想がありました。

- 1級審判員である千葉様に解説していただきながらの観戦研修であることを知り、なんと贅沢な研修!!と驚きました。
- ファウルの判定に時々悩む為、ファウルを取らなかった時にリアルタイムで質問ができとても参考になりました。
- WEリーグの試合を初めて観戦し、その魅力も知ることもできました。
- 副審の役割等たくさんのアドバイスをいただき、とても参考になりました
- 副審のラインキープなどを気にして見ることができました。
- 今回の研修を通して、自分の課題は試合の展開を予測する力が足りないことだと感じました。主審として無駄を少しでも省いた動きができるように、これからもレフェリー目線での試合観察を続けていきたいと思います。
- まず基本的なところからきちんと覚えていかないといけないなと反省しましたし、普段から競技規則を読み、試合を見る時は審判目線での視点を持つて見たいと思いました。



それぞれに有意義な研修になったことと思います。

女子部では、今後も観戦研修や実技研修を開催する予定です。資格を取得して間もない方でも安心して参加できる研修や、上級審判を目指す方のための研修など、ニーズに合わせて企画していきたいと思います。案内があった際にはぜひご参加ください。





【フットサル2級】(順不同、敬称略)

田口 雄一 金指 友翔

【サッカー1級審判インストラクター】

牛尾 眞一郎

フットサル2級昇級者よりコメント

田口 雄一(たぐち ゆういち)

この春にフットサル2級へ昇級いたしました田口 雄一です。まずは今回の審査、またこれまでの過程で最善のご指導をしてくださいました木村部長、室田前部長、櫻田さん、そして諸先輩方へこの場を借りて感謝申し上げます。

私がフットサルへ転向してから4年目となり、また関東のフィールドで審判ができることがとても嬉しく、やる気と期待でワクワクしています。そして挑むからにはさらに上を目指して、日々精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



金指 友翔(かなさし ゆうと)

この度、フットサル2級審判員昇級認定審査に合格いたしました、金指 友翔(かなさし ゆうと)と申します。今回の昇級審査は、2024年9月から12月にかけて千葉県協会で行われた予備審査と、2025年6月15日に稲城市立第三中学校で行われた関東協会での本審査という二段階で構成されており、半年以上にわたる挑戦の末に合格を手にすることができました。

予備審査は三段階に分かれて実施されました。まず1次審査の書類審査では、「千葉県フットサルリーグ1部・2部において、主審・第2審判として15試合以上の割当を受けていること」が基準とされていました。私は2023年度から本格的に審判活動を始め、継続的に割当をいただいていたため、この基準を難なくクリアすることができました。続く2次審査は、2024年10月13日に大網白里アリーナで行われ、筆記試験では93点を獲得し、また体力試験でもSPEED・CODA・ARIETの3種目を基準以上でクリアし、規則理解と身体能力の両面で一定の成果を示すことができました。

最大の関門となったのが3次審査の実技試験です。ここでは公式戦3試合を担当し、判定・動き・マネジメント・試合全体のコントロールについて評価を受けました。1試合目は千葉県フットサル1部リーグの主審を務め、判定基準が一貫しており、些細な反則も見逃さずに対応できた点を高く評価いただきました。特にペナルティーキックの判定については「しっかりと見極めてハンドの反則を取った」と評価され、試合全体としても「競技者・ベンチも騒がず、引き締まった試合になった」と講評いただき、安定したパフォーマンスを発揮することができました。

しかし、2試合目の全日本フットサル選手権千葉県大会準決勝では、第2審判を務めたものの課題が浮き彫りとなりました。動きの面では「十分なスピードを維持していた」と評価されましたが、判定の一貫性や懲戒罰の伝え方については不十分との指摘を受けました。「繰り返しによる警告がファウルの質を考慮せず回数のみで判断されたように見えた」「警告理由がパブリックに伝わっていなかった」とのコメントがあり、自分では上手く進んできたと思っていた一方で、第三者から見るとファウルとフットボールコンタクトの境界を競技者と共有できていなかったこと、また適切なマネジメントが不足していたことが明らかとなりました。協力的なチームに救われはしましたが、今後克服すべき大きな課題を自覚する機会となりました。

3試合目の千葉県フットサル1部リーグ最終節では、第2審判を担当しました。すでに優勝は決まっていたものの、プライドを懸けた意地のぶつかり合いとなり、予想通り厳しい展開の試合でした。難しい局面も多く課題は残りましたが、最終的には合格点をいただくことができ、予備審査を突破することができました。

こうして迎えた本審査は、2025年6月15日に稲城市立第三中学校で実施されました。各都県から推薦された7名の受験者が集まり、筆記試験と体力試験に臨みました。結果は筆記試験95点、SPEED 2.92秒・2.90秒、CODA 9.18秒、ARIET 90本といずれも高い水準を残すことができ、受験者の中でトップの成績で合格することができました。



半年以上に及ぶ挑戦が実を結んだ瞬間であり、大きな喜びと達成感を感じました。

振り返れば、2年前にReferee Newsへ寄稿したフットサル3級審判員昇級審査レポートの中で、「大学卒業までにフットサル2級審判員に昇級する」という目標を掲げていました。今回、大学4年生の春にその目標を達成できたことは非常に感慨深いものがあります。しかしながら、これはゴールではなく一つの通過点にすぎません。当時のレポートに記した「ゆくゆくフットサル1級審判員の資格を取得したい」という目標はいまだ残されており、そのためには今回の試験で浮き彫りとなったマネジメントの課題を克服し、より難易度の高い試合でも冷静かつ的確に試合をコントロールできる力を磨いていく必要があります。いつの日か金色のワッペンを胸につけ、Fリーグの舞台で笛を吹くことを夢見て、今後も研鑽を重ねてまいります。

最後になりますが、このように長く険しい道のりを乗り越えることができたのは、千葉県サッカー協会審判委員会フットサル・ビーチサッカー部 部長の木村拓氏、前部長の室田智広氏、フットサル1級インストラクターの櫻田雅裕氏をはじめ、多くの皆様のご指導とご支援があつてこそです。また、本審査を共に受験した田口 雄一氏の存在も大きな励みとなりました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いいたします。

おめでとうございます！ 今後のご活躍を期待いたします！！

～2025年度の審判資格更新について～

今年度も更新講習会(集合講習や実技講習)の開催が少なくなっており、3級・4級のサッカー・フットサル審判員の資格更新については、「JFAラーニング」を利用した資格更新を推奨致しています。

2級のサッカー・フットサル審判員の資格更新については、決まり次第KICKOFFメール等で案内します。

〈JFAラーニング〉

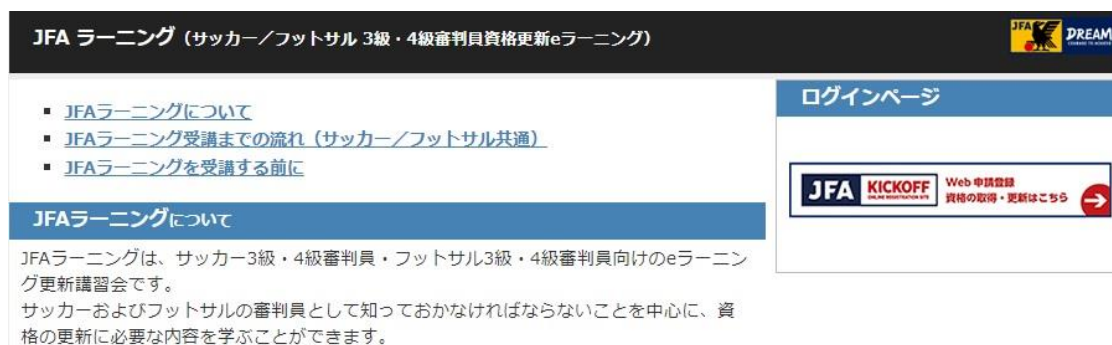
JFA KICKOFFにログインしていただき、

- 1、画面左側の「審判」をクリック。
- 2、「講習会・研修会」をクリック。→「講習会・研修会申込み」をクリック。
- 3、「更新講習会」を選択。
- 4、「検索」をクリックし「JFAラーニング」を選択して下さい。



JFAラーニングについては下記、URLを参照してください。

<http://els.jfa.or.jp/info/referee/invitation/html/>



なお、「JFAラーニング」の受講は10月から可能です。

受講完了で審判資格の更新が出来ますが受講には期限がありますので、お早めに受講下さい。

※更新講習会(集合講習や実技講習)や「JFAラーニング」の受講期限徒過により更新講習を受けられない場合は、2025年度末で審判資格が失効となりますのでお気を付け下さい。

2025年度更新講習会お知らせ(フットサル)

- ・ F3、F4 審判員の更新講習は JFA ラーニングでの更新をお願いいたします。
- ・ F2 級審判員及び 3 級インストラクターの更新講習会は決まり次第連絡いたします。

帯同審判員対象フォローアップ研修会

Web開催を計画中です。決まり次第、担当審判員に連絡いたします。

カテゴリー審判員対象研修会

Web開催を計画中です。決まり次第、担当審判員に連絡いたします

※2026年度新規取得講習会を含めて、詳細は決まり次第Webの方にアップいたします。

～競技規則のWeb化について～

サッカー競技規則2025/26については、Web版のみとなりました。以下のURLをクリックするとJFAのページからWeb版の競技規則を閲覧できますのでご確認ください。

<https://jfa.jp/laws/> (JFAのホームページ⇒関わる⇒審判⇒競技規則)



サッカー競技規則

サッカーの競技規則は、国際サッカー評議会（IFAB）によって制定されており、公益財団法人 日本サッカー協会(JFA)では毎年改正部分を含めて日本語に翻訳し、解説を入れています。
FIFAならびにFIFAに加盟する各大陸連盟および加盟協会下で行われるサッカー競技は、すべてこの規則に基づきプレーされています。

2025/26

PDF版

クリックすると各条項目を閲覧できます。
※PDFとしてダウンロードが可能です

サッカー競技規則2025/26(ファイルサイズ:9.7MByte)

冊子版

JFA公式オンラインストア「JFA STORE」でご購入いただけます。
※ご購入金額が5,500円(税込) 以上の場合は、送料が無料となります。
※JFA STOREでのご購入には、JFAが提供する様々なサービスをご利用いただける統合ID「JFA ID」の無料取得が必要です。

冊子版が欲しい方は、JFA ストアから購入
する事ができます

※ 現在冊子版は品切れ中です(2025年10月6日時点)

編蹴後記

暑さも和らいで、朝晩は肌寒かったりする日も出てきました。審判活動を楽しむためにも体調は万全に！

秋はトーナメントの季節。様々なカテゴリーで一発勝負のトーナメントが繰り広げられています。

Jリーグも現行制度で最後のシーズンが佳境を迎えていて、推しクラブの状況に一喜一憂する日々を楽しんでいる方も多いかもしれません。県内のリーグ戦やトーナメントも落ち着くと束の間のオフがやってきます。試合がない寂しさを感じつつも、年末年始の忙しさにそれどころじゃない、という方も？

審判活動を楽しむ皆さんにとって、少しでも有意義な活動ができるよう、審判委員会のメンバーも研修会等を様々な企画しています。多くの方にご参加いただけるように、レフェリーニュース等を通して、告知していきます。一人でも多くのご参加と、「また来週頑張ろう！次の試合が楽しみだな！」とっていただけると嬉しいなあと、思っている多くの委員会メンバーがいることを、ここでこっそりとお知らせいたします。

研修会等の対象になった場合は、是非積極的にご参加いただき、何か一つでも持ち帰ってください！
またフィールドや研修でお会いしましょう！



審判委員会総務部・サッカー2級審判員 Fucchie

長田 晃	審判委員会 総務部 E-mail : cfarc.somu@gmail.com 
金子 秀之	
高野 祐介	
田口 雄一	
中山 達良	
長谷川 鉄哉	
瀧上 祥太	
公益社団法人 千葉県サッカー協会審判委員会	https://chiba-fa.gr.jp/13judge/

Facebookもチェック

[千葉県サッカー協会 審判委員会\(発信専用\) - ホーム | Facebook](#)

<https://www.facebook.com/ChibaFA.rc>